

～ 健口と輝く笑顔のために～

# 歯科衛生だより 会報

2025 February vol. **85** 発行人/吉田直美 発行/公益社団法人日本歯科衛生士会 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19  
TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023 <https://www.jdha.or.jp/>

## 年頭所感

会員の皆様へ、謹んで新春のご祝詞を申し上げます。昨年も勤務実態調査へのご回答など、会の活動に変わらぬご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、我が国は大規模な自然災害に見舞われ、大変な状況を経験しました。一方、本会においては、少しずつ歩を進めることが出来たと感じています。年頭にあたり、昨年の活動を振り返りつつ、新年の抱負を述べさせていただきます。

### 【災害支援の取組み】

昨年の特記すべき活動として、元日早々に発生した能登半島地震における本会登録の災害歯科保健歯科衛生士の方々の災害支援があげられます。発災後の大変な状況の中、日本災害歯科支援チームとして延べ457名が全国から支援に入ってくださいました。今回、現地の状況、歯科保健ニーズなどの情報を速やかに収集、発信できなかった点が今後の課題であると感じております。今後も大規模自然災害が想定されますので、本会独自のネットワーク整備を進め、登録者数の増加と研修の充実を図って、被災地の近隣県から十分な人材派遣が行えるよう体制を整えていきたいと考えております。

### 【予算・制度に関する要望活動】

#### ☆歯科衛生士による口腔健康管理について

近年、歯科衛生士による口腔健康管理の重要性への認識が広がっており、令和6年度の診療・介護報酬の改定において、回復期リハビリテーション病院における入院患者への歯科衛生士による口腔衛生管理に対する評価が設けられ、緩和ケア患者への訪問歯科衛生指導料および終末期がん患者への居宅療養管理指導の算定回数の引き上げが実施されました。この改定は、歯科衛生士の実践に対する評価や報酬について本会から要望してきた内容が一定程度反映されたものとなっています。今年も、歯科衛生士への評価を高め、多職種連携における認知度を向上させるために、要望活動を進める所存です。

#### ☆人材確保について

歯科衛生士不足が長年の課題となっており、離職防止・復職支援事業が引き続き重要となっています。本会では、近年顕著となっている新人歯科衛生士の早期離職への対応策として、全国的な新人研修

公益社団法人 日本歯科衛生士会  
会長 吉田直美



制度の導入を厚生労働省に要望しております。また、歯科衛生士を生涯の仕事として続けるためには、就労継続に向けたサポート体制と、転職・復職についての専門的相談窓口が必要と考え、全国的な相談窓口設置と相談専門員配置を要望してきました。現在、厚生労働省では復職支援や新人の離職防止等に向けた研修指導者等の人材を育成するための事業を計画しており、厚生労働省補助事業として本会主催の就業相談対応者講習会を開催する予定となっています。新たな試みですので、多くの方のご応募をお待ちしています。

### 【学術面の取組み】

昨年7月にソウルで開催された国際歯科衛生シンポジウムでは、日本から、173名の参加があり、招待講演ならびにポスター20題、口頭5題の発表が行われました。さらに、最優秀口演・ポスター発表賞の受賞や招待講演の座長担当など、日本の研究者のパワーを世界に向け発信していただきました。

9月に新潟で開催された日本歯科衛生学会第19回学術大会では、初めての専門領域別・研究集會が開かれ、立ち見が出るほどの大盛況で、順調な滑り出しとなりました。この研究集會は今後予定している専門歯科衛生士制度の基盤となる重要な取組みですので、今年は発展に向けた一歩にしたいと考えています。

2025年の干支は「乙巳」で、努力や準備が実を結び始める時期とされており、本会の今までの努力、活動の積み重ねが実を結ぶ年となることを願っております。口腔健康支援を通して、健康寿命延伸、QOLの維持向上を目指す事業の発展には、組織強化と会員の皆様のご協力が不可欠です。今年も、本会活動への皆様の一層のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 日本歯科衛生学会雑誌は20巻1号から電子化されます。

19巻1号でお知らせをしておりました日本歯科衛生学会雑誌の電子化は、20巻1号(2025年8月発行予定)から始まる予定です。これからは、電子ジャーナルプラットフォーム(J-STAGE)および日本歯科衛生士会ウェブサイトにおける公開に移行いたします。記念すべき20巻からです。会員の皆様から募ったご意見につきましては日本歯科衛生学会ウェブサイト上で回答しております。現在、電子化に向けての準備をしているところです。学会抄録は、ウェブサイトからダウンロード・印刷できるように検討しています。電子化の進捗状況は、ウェブサイト上でご報告いたします。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。



日本歯科衛生学会 編集委員会

# 令和6年度 認定歯科衛生士セミナー開催報告

認定歯科衛生士委員会

令和6年度認定歯科衛生士セミナーは、昨年度同様オンライン開催と半数のコースでは一部集合型での開催を再開した。講義はすべてのコースで決められた期間内に受講生のタイミングで繰り返し動画が視聴可能なオンデマンド配信で行った。ライブ配信研修では、オンライン上でのグループワークやリアルタイムで講義を視聴し質疑応答を行った。集合型研修では、受講生が会場に集まり対面で講義を受け、さらに演習やグループワークを行った。全国の仲間と出会い、臨床での悩みの共有や情報交換をする場面も見られ、対面研修ならではのメリットをいかすことができた。

認定歯科衛生士の取得に向けて、セミナーの受講をお考えの方はぜひご一読いただき、受講生の声も参考にさせていただきたい。

## 生活習慣病予防

(特定保健指導一食生活改善指導担当者研修)コース

本コースは、オンデマンド配信(28.5時間)を9月2日(月)～10月16日(水)、ライブ配信(研究討議3.5時間)を10月19日(土)に実施し、37名が受講した。

オンデマンド配信では、医師、歯科医師、保健師、管理栄養士の先生方から健康づくり施策の考え方と進め方、生活指導およびメンタルヘルスクア、栄養指導、健康教育および身体活動・運動の基礎科学について講義が行われた。

研究討議は、居住地や家庭環境などを考慮し、多くの会員の受講を可能とするためライブ配信にて開催した。生活習慣病予防指導の事例動画2例を視聴し、来談者、面談者に対する意見交換および相談環境の設定について討議を行った。その後は受講生が来談者・指導者役となって模擬指導の実施を行った。来談者役の受講生のみが講師から症例の詳細を伝えられて、指導者役の受講生と相談を行う流れであった。来談者・指導者役はもちろん、相談を観察する受講生も真剣な様子をうかがうことができた。体験の実施後は「来談者に相談・指導に向き合ってもらう工夫」、「来談者に必要な情報を話してもらう工夫」等についてグループごとにまとめを行った。グループ発表では受講生一人ひとりの体験もいかし、来談者に寄り添った活発な意見交換が行われた。当日は体調不良や欠席もなく全員がライブ配信後の認定テストまで受講することができた。ライブ配信に関わる委員が少ない中、無事に実施できたことは多くの関係者の協力があってこそである。この場を借りて御礼を申し上げたい。

(委員 戸田 花奈子)



## 摂食嚥下リハビリテーションコース

本コースは、オンデマンド配信を9月20日(金)から11月22日(金)、集合型演習を11月23日(土・祝)・24日(日)の2日間にわたって行い、37名が認定テストまで修了した。摂食嚥下障害を有する患者に、認定歯科衛生士として適切で水準の高い摂食嚥下リハビリテーションを実践するための問題解決能力と臨床的スキルを確認する目的でセミナーが行われた。

(委員 田中 祐子)

## 「摂食嚥下リハビリテーションコース」を受講して

摂食嚥下リハビリテーションについては、2年制教育課程で学ぶことのできなかった分野であり、卒後研修等で身につけてきたものを確認することができる貴重な機会であった。9月末から始まったオンデマンド研修の内容は充実のカリキュラムであり、2か月はあっという間に過ぎ最終日ぎりぎりまで動画を繰り返し視聴した。またオンデマンド研修で演習を実施できるよう工夫を凝らし作成されており、何度も繰り返しながら自宅で演習を実施することができた。

集合型研修では、1日目「摂食嚥下訓練」として間接訓練・直接訓練、「リスクマネジメント経鼻吸引」として鼻腔からのカテーテル挿入の相互実習を行った。講師の先生方に直接ご指導いただき、オンデマンド演習だけでは得られなかったより具体的な手技や、自身が患者役になり体感することで思いやりのある手技につながると感じた。2日目には「歯科衛生ケアプロセス」演習としてグループワークが行われた。病院・高齢者施設・行政と勤務地は様々なメンバーではあったが、多職種との連携において、根拠あるケア計画の立案等、自ら課題を抽出し解決へ向かうよう実践する力が必要であると強く感じた。また、この研修会で出会うことができた仲間との交流も楽しめた。

今後は行政歯科衛生士として、地域の健康課題を分析し住民への啓発を行うと同時に、多職種と連携し乳幼児期から高齢期にわたり支援ができるよう取り組んでいきたい。

また、どの地域においても、摂食嚥下にかかわる支援を必要とする方に、適切な支援が届き、また様々な場面で多くの歯科衛生士が専門性をいかせることを切に願いたい。

最後に研修会準備にご尽力いただきました認定歯科衛生士研修委員会の皆様に深く感謝申し上げます。

(長野県歯科衛生士会 吉川 由紀子)

## 在宅療養指導・口腔機能管理コース

今年度の本コースは、前半にオンデマンド配信の講義、後半にライブ配信の講義と集合型の研修という多様な形式で行った。集合型の研修は大阪で開催し、全国各地から29名が参加した。前半のオンデマンドの講義では、在宅療養者の支援に必要な口腔健康管理の知識・技術を習得できるよう、認定研修ならではのプログラム配信を1か月間行った。在宅医療の現状や主な疾患、口腔機能について、栄養管理や医療機器についての講義を、時間や場所にとらわれず繰り返し視聴することで知識を深めてもらった。後半のライブ配信では、薬剤の知識と終末期・看取りの知識、歯科衛生士が行うマネジメントの知識の講義を行った。ライブ配信ならではの臨場感や繰り返し視聴することができない緊張感のなか、時には緊張がほぐれるひとときもある講義となった。集合型研修は症例検討をグループで検討し、歯科衛生士ケアプランの作成に取り組んだ。途中、講義も受けながら、参加者個々の背景や経験を共有し、オン



デマンドやライブでの講義で得た知識をいかし、患者に寄り添うプランを作成した。作成途中で2度発表を行い、講師からの指導を得ながらより良いプランを作り上げていった。プランを作成するだけではなく、グループワークを通して、コミュニケーションをとること、共同で作業すること、その際の関係性などを学べたのではないかと。また、対面で行うことによって、討議だけではない様々な話もできたのではないかと思います。受講者の方には今回の縁を大事にし、場所は離れていても同じ思いで働いている仲間がいることを思いながら在宅療養指導・口腔機能管理コースの認定衛生士として活躍してほしいと願う。



(委員 小田 奈央)

### 糖尿病予防指導コース

本コースは、「糖尿病予防の歯科保健指導および管理にかかる専門的な知識・技術を習得し、地域社会に貢献できる医学的、歯学的な知識と歯科保健学的技能を習得する。」を目的に9月29日(日)にライブ研修からスタートした。翌日から11月22日(金)までオンデマンド配信で各自自己学習を行った後に、しばらく新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止していた集合型研修を11月23日(土・祝)、24日(日)に浜松町の会場で開催した。

(委員 水上 美樹)

#### 「糖尿病予防指導コース」を受講して

私は日頃、産業歯科保健業務に従事していますが、糖尿病の方に保健指導する場面も少なくありません。しかし、歯科衛生士の立場から自信がないというのが正直なところでした。そのような時に糖尿病予防指導コースを受講する機会をいただき、糖尿病に関する基礎知識をはじめ、最新情報にも触れることができ、今までの知識をアップデートすることができました。特に印象に残っているのが、糖尿病と正常の間には糖代謝異常(未病)という段階があり、歯周病と類似性があることです。歯周病も歯肉炎の段階から早期に介入することで、健康に戻すことができます。同じように糖尿病も未病の段階で、介入することが大切になります。私自身もこれまで糖尿病には程遠いと思っていましたが、気になって自分の健康診断の結果をみると、血糖値が糖代謝異常に近い数値であることに驚きました。自覚症状が乏しく、重症化しやすいことも歯周病と似ていると実感しました。

受講者は同じ歯科衛生士でも働く現場はさまざまです。グループワークでは、それぞれの立場から活発な意見が出され、自分の視野が広がる思いでした。保健指導対象者に対する質問の仕方や共感も大切であることや、歯科だけにとらわれることなく、医科との連携が大切なことを学びました。今回の研修で、情報交換ができる仲間ができ、心強い同志を得たことは、これからの大きな力になると思います。

令和6年度診療報酬改定において、糖尿病患者に対して歯科受診を推奨する要件が追加されました。歯科衛生士は糖尿病発症前から発症後のどの段階でも携わることができます。

これを機会に、自信を持って、糖尿病の予防・重症化予防に貢献できるように努めたいと思います。

(東京都歯科衛生士会 松木 晴香)

### 医科歯科連携・口腔機能管理コース

医科歯科連携・口腔機能管理コースが、前期オンデマンド配信(6月29日~7月27日)、ライブ配信(7月28日)、後期研修:病院見学(7月29日~8月26日)で開催された。全国から20名が本研修を受講した。

前期オンデマンド配信では、まず医科歯科連携に必要な基礎知識を学ぶため、外科医師、脳血管外科医師、放射線科医師、歯科医師、緩和ケア認定看護師、薬剤師など様々な職種から、幅広い視野での講義をオンデマンド配信した。

その内容を踏まえて、7月28日のライブ配信ではZoomを使用し、乳がんの薬物療法症例について、周術期等口腔機能管理における専門的口腔衛生処置計画の立案をグループワークとして行い、症例を検討した。一度、グループで検討し、発表したのちに、そこで出た問題点や意見について再度検討・発表を行ったことで、より症例についての理解を深めた。オンラインではあったが、1日かけて活発なグループワークが行われていた。他施設の歯科衛生士と症例検討することで、いろいろな意見が聞けて良かったとの感想が多くみられた。

後期研修では、4班に分かれて、各5名のグループで1日間、東京歯科大学市川総合病院の見学実習を行った。歯科・口腔外科外来や口腔がんセンターにて、がん患者の口腔健康管理の実際を見学した。また脳卒中センターの病棟カンファレンスやNST回診に参加し見学することで、チーム医療における歯科衛生士の役割を確認した。さらに、病院に併設されているスキルスラボにて、シミュレーターを用いた咽頭吸引実習、頸部および胸部の呼吸音聴診実習を行い、周術期等口腔機能管理を行う上で必要な知識・技術を習得した。研修終了後、受講生からは学びが多く、充実した見学が行えたとの声が多くあった。

(委員 大屋 朋子)

### 歯科医療安全管理コース

本コースはオンデマンド配信講義が7月27日(土)~9月8日(日)、オンラインワークショップライブ配信が8月31日(土)、9月1日(日)の2日間で実施され、33名が受講を修了した。受講者の所属としては、病院・施設・保健所等17名、歯科医院14名、歯科衛生士養成学校2名と、様々な歯科医療機関勤務の方が受講されていた。オンデマンド配信では医療安全に関する講義(9項目)、感染対策に関する講義(8項目)を受講したのち、オンラインワークショップでは①臨床現場における医療安全、②感染防止に関する対策(オーデット\*作成)、③事例から学ぶ医療安全対策のワークショップが行われた。オンデマンド配信の講義で得た知識をいかし、各ワークショップでは職場環境やキャリアの異なる歯科衛生士がグループ内で活発なディスカッションを行い、グループとしての意見をまとめて発表が行われた。また、所属施設や環境が異なる受講者同士で現状や実際に行っていることなどを交えながら、意見交換・情報交換ができたことは今後の業務に参考になったとの意見もあった。

医療安全・感染防止対策は医療の基本であり、臨床現場での知識・技術の再確認に加えて、事象が起こった時の対応や考え方など、改めて実践できる知識・技術を学べたのではないかと考える。本セミナーを受講することで、医療安全管理・感染防止対策を担うリーダーとして、各施設内で活躍する歯科衛生士が増えていくことを期待したい。

※オーデット:内部監査、医療での監査対象は診療・記録方法および機器・環境・システム管理など。

(委員 中岡 美由紀)

## 令和6年度 歯科保健事業功労者 厚生労働大臣表彰

**個人** 三富 純子様  
(一般社団法人 新潟県歯科衛生士会)

「第45回全国歯科保健大会」において表彰を賜り身に余る光栄に存じます。ご推薦いただいた新潟県歯科衛生士会、ならびにご尽力いただいた関係者の皆様により御礼申し上げます。



昭和60年から新潟県歯科衛生士会理事として、会員の歯科衛生業務の実践力・指導力の向上のための研修企画運営に力を注いでまいりました。その結果、会員数の増加にもつながりました。また、歯科医師会や行政と協働し、地域のフッ化物塗布や歯科衛生指導に参画し、子どもたちのむし歯予防の一端にも貢献してきました。ご存知のように新潟県は12歳児のむし歯数が全国最少23年連続日本一になっています。平成16年から会長として災害支援活動の派遣調整や実務に携わってきたことや、日本歯科衛生学会の新潟開催に貢献できたことも忘れられません。

社会貢献のため、歯科衛生士の力は多岐に必要とされています。これから若い歯科衛生士が希望を持ってこの職業を続け、さらに職業として選んでもらえることを願っています。

**個人** 大川 晃子様  
(特定非営利活動法人 静岡県歯科衛生士会)

「第45回全国歯科保健大会」において表彰を賜り誠に光栄に思います。ご推薦いただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



歯科衛生士になって43年。結婚、子育てで仕事をやめていた時期もありましたが、先輩会員から「3歳児健診をやってみない」と声を掛けられたのが行政での歯科保健活動の始まりでした。小・中学校での歯科教室では、多くの媒体を作成し子どもたちが理解できるように工夫をしました。その間に歯科医院での現場復帰も果たしましたが、子どもや家族の行事を最優先して仕事を組み、働けたことは良かったと思っています。また、会活動で障害者施設訪問口腔衛生指導を担当していたことから、障害者歯科にも携わり、「日本障害者歯科学会・認定歯科衛生士」の資格を取得しました。仕事の節目には会活動が関わっていると感じています。

今後は静岡県歯科衛生士会の副会長として尽力するとともに、後進の育成に力を注ぎたいと考えています。

**個人** 中村 加代子様  
(公益社団法人 熊本県歯科衛生士会)

令和6年11月2日に熊本城ホールにて開催された第45回全国歯科保健大会において厚生労働大臣表彰を賜り、身に余る光栄です。ご推薦いただいた熊本県歯科衛生士会、あわせてご尽力いただいた関係者の皆様にご場をお借りして厚く御礼申し上げます。



昭和55年に歯科衛生士の資格を取得し、口腔外科の標榜のある歯科医院に勤務し、口腔や全身管理の重要性を学びました。その後「口腔ケア」の重要性がいわれ始めた時期に歯科訪問診療や施設在宅療養されている方の口腔ケアに関わりました。現在歯科の標榜のないケアミックス型病院に勤務し多職種と連携して入院患者や施設利用者の口腔衛生管理に関わっています。また、地域ケア会議の助言者、地域住民の介護予防事業にも携わっています。

今後も微力ではありますが、歯科衛生士会の仲間とともに多職種と連携を図り、地域の方々の歯と口腔の健康づくりに貢献できますよう精進して参ります。

**団体** 青森県歯科衛生士会三八支部

第45回全国歯科保健大会(令和6年11月2日・熊本県熊本市)において、歯科保健事業功労者、厚生労働大臣表彰地域功績団体の部で表彰を賜りました。これもひとえに歯科医師会の先生方および関係各機関のご支援と今日まで諸先輩方が築き上げた多くの功績の賜物と感謝申し上げます。



私たちは青森県南部において昭和48年の設立当時から50年余りにわたり、乳幼児から高齢者および障がい者や要介護高齢者に対しての歯科保健事業、国保ヘルスアップ事業での歯科保健指導など地域に根差した活動を積極的に行ってまいりました。3歳児のう蝕罹患率は県平均よりも高い地域のため、効果的な歯みがき指導ができるようにと会員が作成した手作り人形媒体「歯みがきトロ人形」は、本会のマスコットとして保育園・幼稚園や小学校での指導に大いに役立っております。

今後も表彰に恥じる事のない活動を会員と子どもも協力しながら継続していく所存です。(青森県歯科衛生士会三八支部長 木村 和子)

## 令和6年度「健やか親子21-8020の里賞(ロツテ賞)」

**優秀賞** 藤沢歯科衛生士の会・スマイル

この度、令和6年度「健やか親子21全国大会」において、「8020の里賞(ロツテ賞)」を受賞し、大変光栄に存じます。

「8020を目指し生涯自分の歯で食べる」を目標に、子どもの頃からの口腔管理の充実に向けて活動をしています。むし歯予防の方法や咀嚼・嚥下の大切さを理解していただくために、行政の歯科職と協働で、目に焼きつけるような媒体づくりを心がけました。健康教室では、講話に注目するよう藤沢市の公式キャラクター『ふじキュン♡』の挨拶からスタート、咀嚼・嚥下の媒体を動かし説明することで関心を持ち、食べるために口の機能が、いかに大切かを理解いただきました。



今後も、市民の歯と口腔の健康づくりに寄り添えるよう、活動の輪を広げていきたいと考えております。

(藤沢歯科衛生士の会・スマイル 会長 若尾 美知代)



# 国家資格等オンライン・デジタル化の開始について

令和6年8月6日より国家資格のオンライン・デジタル化が始まりました。これまでは紙で行われていた氏名などの変更手続きや新たにデジタル資格者証の取得がオンラインでできるようになります。

歯科衛生士については、2025年秋以降、順次開始される予定です。利用開始時に可能な手続きは資格ごとに異なりますので、詳細については、デジタル庁ウェブサイトなど、適時更新される情報をご確認ください。

(2024年12月20日現在)



デジタル庁ウェブサイト  
「国家資格等のオンライン・デジタル化」お知らせページ

※本記事内のイラストの出典はデジタル庁「国家資格等オンライン・デジタル化の開始について」PDFより



## 「会員ページ」を活用していますか？

日本歯科衛生士会(以下、本会という)では、デジタルトランスフォーメーション(以下、DXという)を推進しています。本会のDX推進とは、デジタル技術を活用して、歯科衛生士や口腔保健に関わる情報発信、本会と会員の変化に対応し、効率よく相互の関係を良好に保つことを目的としています。各会員の皆様には「会員ページ」は本会とつながる窓口としての役割が強化されています。今後、学術雑誌の電子ジャーナル化など、歯科衛生士の未来に向かって、ますますイノベーション(技術やサービスの革新)が進むことが予想されます。

長期間「会員ページ」にログインされていない方は、ログインが可能か、ゆとりをもって確認をお願いいたします。また、可能な限り、メールアドレスの登録をお願いいたします。緊急時および本会運営に重要な連絡などを配信させていただきます。

会員ページでは下記の確認・修正が可能です。期間限定メニューは、今後も追加される予定です。

### 会員専用メニュー

- 研修コース別に取得した単位の閲覧
- 受講した研修会の履歴の閲覧
- 研修会情報をメールで受信できる設定
- 会員情報の変更
  - ・メールアドレス設定(DH-KENまたは、認定研修受講者は必須)
  - ・住所・連絡先の変更 ・勤務先情報の変更
- 所属都道府県会移動の申請案内
- 各種書類・申請書などのダウンロード
- 「会員ページ」ログインパスワードの登録・変更
- 歯科衛生士賠償責任保険制度の詳細と申込
- 期間限定メニュー
  - ・認定歯科衛生士研修会申込み ・歯科衛生士勤務実態調査など

### ログインパスワードの再設定方法

1. 図の「パスワードを忘れた方はこちら」をクリックする。  
届いたメールのURLよりパスワードの再設定。  
※ただし、会員情報に登録されているメールアドレスと会員番号が必要です。
2. 事務局に電話連絡(平日のみ対応可能)



## 令和7・8年度代議員選挙立候補者一覧表

各選挙区とも代議員定数を超えていないことから、代議員選挙規則第12条第5項の規定により投票による選出は行わないことといたしました。

北海道	昆 美 奈 田中 麻衣 末永 智美	東京都	大金 伸子 佐藤 静香 佐藤 祥子 藤山 美里	岐阜県	奥村 美雪 堀 佐和子	兵庫県	石井 美和 岩崎 小百合 栗原 知子 清水 豊子	高知県	大野 由香	
青森県	蛭澤 美由樹		細田 江美子 横井 節子	静岡県	新井 恵美 金森 麻依子		福岡県	岡留 朝子 古賀 直子 松永 真理子		
岩手県	大友 さつき		打矢 純子 岡本 香 添田 静香	愛知県	金森 いづみ 柴田 享子 長縄 弥生 細久保 真理子 水草 あゆみ		佐賀県	陣内 美穂子	長崎県	岩本 和美
宮城県	前沢 葉子		坂野 さおり	三重県	笹間 滋代		奈良県	米田 衣代	熊本県	中村 加代子 中村 昌代
秋田県	甫仮 貴子	山梨県	宮嶋 典子 吉川 由紀子	滋賀県	土屋 奈美	和歌山県	野村 カオル	大分県	渡邊 弘美	
山形県	佐藤 奈美		薄波 清美 辻野 和佳子	京都府	吉本 美枝	鳥取県	石井 奈美	宮崎県	小川 沙織	
福島県	山守 理真	長野県	荒木 千加子 赤田 巧子	三重県	品田 和子 清水 未衣 間狩 みな子 山口 千里 米田 裕香	島根県	吉田 ちかみ	鹿児島県	下川 真弓	
茨城県	岩村 昌子		荒木 千加子 赤田 巧子	大阪府	品田 和子 清水 未衣 間狩 みな子 山口 千里 米田 裕香	岡山県	久本 千佳	沖縄県	野田 直美	
栃木県	中村 美智子	新潟県	川端 登代美	大阪府	品田 和子 清水 未衣 間狩 みな子 山口 千里 米田 裕香	岡山県	藤原 千尋 三好 早苗	徳島県	高石 和子 松尾 明美 川上 三紀	
群馬県	本多 ゆかり		富山県		荒木 千加子 赤田 巧子	山口県	柴田 久美			
埼玉県	荒井 郷子 富永 悦子	石川県	赤田 巧子		香川県	松尾 明美				
千葉県	榎本 亜弥子 高澤 みどり 那須 啓子	福井県	川端 登代美		愛媛県	川上 三紀				

## ブロック連絡協議会開催報告

### 北海道・東北ブロック(福島県) 一般社団法人 福島県歯科衛生士会 会長 丹野 直子

令和6年11月16日(土)～17日(日)北海道・東北ブロック研修会・連絡協議会が郡山市にて開催された。日本歯科衛生士会の河野章江副会長、長岐ブロック理事をお迎えし1道6県総勢25名が参加した。

初日の研修会では、一般社団法人郡山歯科医師会会長の佐久間盛徳先生より「組織の活性化」をテーマにご講演いただいた。アンケート結果より、歯科医師会の先生方が歯科衛生士会をどのように理解し認識しているのかについて聴くことができた。グループワークではアンケート結果から見えてきた問題点を抽出し、取り組むべき課題についてディスカッションが行われた。『組織として十分に認識されていない』現実を知ることができ、今後の活動の参考になる有意義な研修会であった。



2日目の連絡協議会では、河野副会長より日本歯科衛生士会からの情報提供として「①医科歯科連携、②地域連携における口腔健康管理の推進、③災害歯科保健医療の推進、④卒前卒後のシームレスな人材育成のための教育研修体制の構築、⑤歯科衛生士の人材確保、⑥行政に関わる歯科衛生士の配置促進、⑦歯科衛生士の処遇改善」について、ご説明いただいた。また、長岐ブロック理事には組織委員会からの情報提供をいただいた。次に、各道県より提出の定例報告、「情報交換～会員数減少への対策、新入会員促進・退会者減に対する取り組みについて～」をメインに協議を行った。続いて、「令和7-8年度ブロック理事推薦、次年度担当県」について決議された。

最後に、関係者の皆様の温かいご協力により無事に開催できたことに心より感謝申し上げます。

### 関東信越ブロック(長野県) 特定非営利活動法人 長野県歯科衛生士会 会長 宮嶋 典子

令和6年10月26日(土)～27日(日)長野市において関東信越ブロック連絡協議会・研修会が開催された。日本歯科衛生士会吉田直美会長と石川博美ブロック理事をお迎えし、1都9県の役員並びに開催県の長野県役員を含め、26日は49名、27日は51名参加した。

協議会の初めに吉田会長からの情報提供があり、特に国に対する要望について具体的に説明をいただいた。石川理事からは組織委員会の報告があった。その後、各都県から提出された議題について協議を交わし、1日目を終了とした。

2日目のブロック研修会は長野県からの強い希望で、日本歯科衛生士会の吉田会長に「歯科衛生士の専門性を確立するために」と題して基調講演をお願いした。各都県の役員が会長の熱意と生の声を聞き、歯科衛生士会の意義と必要性について認識を新たにでき、非常に意義深いものとなった。講演終了後、会長は退席されたが、ご多忙の中、要望にお応えいただき、特に長野県の役員にとっては貴重な経験となったこと、非常に感謝している。



その後8グループに分かれて「歯科衛生士の専門性を確立するために会が取り組むこと」についてのグループワークを行い、活発なディスカッションが交わされ、発表となった。課題は山積しているものの、各地での今後の取組みに期待したい。

皆様のご協力により、有意義な協議会・研修会となったことを感謝申し上げます。

### 近畿ブロック(兵庫県) 公益社団法人 兵庫県歯科衛生士会 会長 高橋 千鶴

10月6日、秋晴れの神戸北野において、担当県として6年ぶりに連絡協議会・研修会を開催した。

連絡協議会は、日本歯科衛生士会(以下、日衛)より岡田専務理事と吉福ブロック理事にご出席いただき、近畿ブロック府県26名の出席により開催した。岡田専務理事よりご挨拶と情報提供、吉福理事より組織委員会の情報の提供があり、いずれの情報も「歯科衛生士だより」などだけでなく、全役員などが聴講できる機会の必要を感じた。



近畿ブロック研修は、日衛から提案された「組織活動の活性化」をテーマに講師を決定し、日衛の協力のもと公益社団法人兵庫県看護協会会長の丸山美津子氏に決定し、「組織活動の活性化～兵庫県看護協会の取組み～」の講演を行った。会員数の多少に限らず目指すべき方向性を学ぶ貴重な機会となった。グループワークは、事前に「組織活動の活性化」に向けて、参加者全員からキャッチフレーズとその理由を募集した39件をもとに、近畿ブロックの活性化に向けた新たなフレーズをワークし発表した。近畿ブロックのキャッチフレーズは「世代を超えて つなぐ ひろがる 歯科衛生士の未来」に決定した。

キャッチフレーズの公表は、10月19・20日に兵庫県において開催された第76回近畿北陸地区歯科医学大会併設デンタルショー「ポートピアデンタルショー2024神戸」歯科衛生士会コーナーにおいて、のぼり旗2流れでPRした。近畿ブロックの他府県には、のぼり旗各2流れを配付し、今後の組織活動の活性化につなげた。



## 中国四国ブロック(徳島県)

一般社団法人 徳島県歯科衛生士会 会長 河野 美枝子

令和6年10月26日(土)~27日(日)、徳島県歯科医師会館において中国四国ブロック連絡協議会を開催した。日本歯科衛生士会から久保山裕子副会長、松浦あずさブロック理事をお迎えし中国四国9県から18名にご参加いただき、当会会員も合わせて総勢29名の参加となった。初日の研修会では「組織活動の活性化」をテーマに島根県歯科衛生士会の吉田ちかみ会長にご講演いただいた。参加者は島根県歯科衛生士会の取組みを伺い、今後の各県会の方向性を考える良い機会となった。その後、5グループに分かれ「今すぐできる! 会員増・退会者減少に向けての活動」をテーマに「現会員・新卒・復職者・未会員」の対象者別に「何を? どうする?」ことで「会の活性化となり会員増、退会者が減ることにつながる!」としてグループワークを行った。各グループでは積極的な意見交換がなされ、発表へと続いた。



2日目は、最初に前日の研修会とグループワークの総評を久保山副会長よりいただいた。次に、日本歯科衛生士会から令和7年度予算に関する要望書の内容、定款変更などの説明がなされ、続いて松浦ブロック理事より組織委員会からの情報提供があった。協議会では各県からの協議事項をとおり、時間一杯まで活発な意見交換がなされ充実した会議となった。

最後に開催にあたり日本歯科衛生士会・各県会の皆様のご協力のもと盛会のうちに終了できたことに深く感謝申し上げる。

## 令和6年度災害歯科保健歯科衛生士フォーラム開催報告

12月1日(日)、令和6年度災害歯科保健歯科衛生士フォーラムが開催され、代理出席を含めた都道府県歯科衛生士会災害歯科保健業務調整(ロジスティクス)歯科衛生士、通称「都道府県衛ロジ」45名が参加した。フォーラムは令和6年元旦に発生した能登半島地震の被災県である石川県会長の報告、JDATとして災害歯科保健歯科衛生士の派遣を行った都道府県会を代表して愛媛県・福岡県のロジ活動報告から始まった。

都道府県衛ロジを対象とした今回のフォーラムは藤田医科大学医学部・地域医療産学連携研究講座准教授である和泉邦彦先生をお招きし「ロジに知っておいてほしい情報整理~クロノロジーの活用~」というタイトルで講演と演習を行っていただいた。

クロノロジー(chronology)とは、災害時や緊急時に発生した状況や活動の日時や発信者、受信者、報告内容等を時系列に記録・整理した情報管理の手法のことである。演習ではライティングシート(ホワイトボードのように書き消しができる

シート)を使用し、災害時を想定し、ロジとしての情報整理の方法を学んだ。記録した情報から団体との相関図を作成する、コンタクトリストやTo-Doリストを作成する、和泉先生の軽快なリズムで次々に発出される情報を埋もれさせないようにと悪戦苦闘しながらも、情報整理の難しさや重要性を学ぶ良い機会となった。



フォーラム後のアンケートでは、「新人ロジの必須研修にしてほしい」などのご意見もたくさんあり、都道府県衛ロジにとって「情報整理~クロノロジーの活用~」がいかに重要な役割を果たすかを知ることができたと思われる。

最後のグループワークでは各都道府県会での課題ごとにワークを行い、課題の実情に応じた改善策を考えるきっかけとした。今後も災害歯科保健活動に興味をもつ会員の増加とこれからの災害歯科保健活動の推進に期待していきたい。

(日本歯科衛生士会 災害歯科保健委員会)



災害歯科保健活動  
歯科衛生士  
実践マニュアル



災害歯科保健  
歯科衛生士  
登録者名簿

## 2025年度 歯科衛生臨床研究助成の公募について

本研究助成は、国民の歯科口腔保健の推進に寄与することを目的として、株式会社YDMの協賛により行っています。

応募については、右記事項を確認のうえ、日本歯科衛生士会ウェブサイトから実施要領、応募書類をダウンロードし、2025年4月25日(金)必着で日本歯科衛生士会事務局へ郵送で申込みを行ってください。

審査を行い、助成決定者には、5月末日までに通知し、7月末日までに助成金を支給いたします。

**本研究助成を受けた方は、研究終了後、研究報告書、会計報告書の提出、日本歯科衛生学会学術大会での発表および日本歯科衛生学会雑誌への論文投稿を行っていただきます。**

- 1 研究期間：2025年4月1日～2026年3月31日
- 2 2025年度指定研究テーマ「口腔健康管理」
- 3 研究助成者：1名
- 4 助成金支給額：30万円
- 5 応募締切日：2025年4月25日(金)必着
- 6 応募書類、実施要領等は、日本歯科衛生士会ウェブサイト <https://www.jdha.or.jp> からダウンロードしてください。
- 7 申込みおよび問い合わせ先  
日本歯科衛生士会事務局 学会担当  
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19  
TEL：03-3209-8020 Email：gakkai@jdha.or.jp

### Linking JDHA to IFDH



#### 『International Journal of Dental Hygiene』

本会では、国際歯科衛生士連盟が発行する学術誌「International Journal of Dental Hygiene (IJDH)」を購読しています。会員の皆様にはIJDHが無料公開されているウェブサイトに直接アクセスできるように、2次元コードを公開いたします。

有料の部分については、IJDHを本会で閲覧することができます。国際協力委員会までお申込みください。(FAX 03-3209-8023)

#### 国際歯科衛生誌

#### 2024年11月 第22巻4号

本号は原著論文を中心に22編で構成されています。そのうち13編は無料で閲覧が可能です。歯科衛生士の雇用状況、インプラント周囲炎に対する認識、小児の口腔保健に関わる傾向の調査などが含まれており、地域や対象によって異なる口腔保健の問題とその対応について示唆に富んだ報告がなされています。患者のみならず、医療者をも対象とした調査が報告されており、幅広い研究手法についても学ぶことができます。

※今年度より、最新の情報をお届けするため、Instagramで先行配信を開始しました。本会公式アカウントをフォローしてご確認ください。



IJDH 第22巻4号



Instagram  
jdha.official  
account

(国際協力委員会 松田 悠平)

### 理事会報告

令和6年度第4回理事会が令和6年12月8日(日)に開催された。審議事項と報告事項は次のとおりである。

#### 審議事項

- (1) 令和6年度歯科衛生推進フォーラム及び都道府県歯科衛生士会会長会について
- (2) 令和7年度ブロック連絡協議会、ブロック研修実施要領(案)について
- (3) 令和7年度認定歯科衛生士セミナー実施計画(案)について
- (4) 令和7年度事業計画の概要(案)について
- (5) 公益社団法人日本歯科衛生士会入会説明会における学生を対象とした「SNSに関するアンケート調査」実施について
- (6) 令和7年度「地域歯科衛生活動」事業の助成について
- (7) 「地方自治体委託事業等実施状況調査」の結果報告及び今後の取組提案について
- (8) 「地域歯科保健活動実施状況調査」内容の見直しについて
- (9) 周年事業について(資料当日配布)
- (10) 新入会員の承認について
- (11) その他

#### 報告事項

- (1) 会務報告
  - ① 業務執行理事等の職務執行報告

- ② 常務理事会の報告
- ③ 常任委員会等の報告
- (2) 次期代議員選出数
- (3) 日本歯科衛生学会第19回学術大会報告
- (4) 令和6年度第1回「歯科衛生士復職支援・離職防止等研修指導者養成研修事業」運営協議会の報告
- (5) 令和7年度理事会等の開催日
- (6) 賠償責任保険の保険請求実績
- (7) 後援名義使用及び生涯研修制度の研修単位認定
- (8) 厚生労働省委託事業「歯科専門職の業務の実態調査及び普及啓発検討事業」における、「歯科専門職の業務の実態調査に関する事業委員会」並びに「歯科専門職の業務の普及啓発検討に関する事業委員会」に係る委員の推薦
- (9) 厚生労働省「歯科衛生士の業務のあり方等に関する検討会」委員の推薦
- (10) 令和6年度広島大学歯学部歯科衛生士教育研修センター運営委員会委員の推薦
- (11) 第74回全日本鍼灸学会学術大会名古屋大会シンポジストの推薦
- (12) 令和6年度都道府県歯科衛生士会への研修支援実施状況
- (13) その他